

# 棚倉町教育委員会 令和4年度完了報告書

令和4年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

## 1. 調査研究概要

「キャリア教育を推進するカリキュラム・マネジメント  
ー夢をつなぎ志を育み、よりよく生きようとする子どもの育成ー」

### 【研究の趣旨】

- ◇ 本町では、平成25年度よりキャリア教育を推進してきた。それらの成果を生かして、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「特別活動を要としたキャリア教育」により育成を目指す4つの基礎的・汎用的能力を地域全体で育成していくカリキュラム・マネジメントに取り組む。
- ◇ 学習指導要領の内容を確実に習得し、将来の社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身に付け、持続可能な地域社会の担い手になり得る子どもを育成する教育課程を目指し、諸調査の結果を一覧できる「個人シートの活用」や「育てたい資質・能力の具体化・意識化・共有化」、及び「マネジメントサイクルの柔軟な設定」に取り組んできた。
- ◇ 1年間の実践を通して、「キャリア教育とカリキュラム・マネジメントは相性がよいこと」「マネジメントのレバレッジポイントは、子どもの姿で成果を発信すること」等を明らかにできた。第2年次は、それらの成果を踏まえ、教育活動のさらなる質の向上を図っていきたい。

### 【研究成果物の概要】

「カリキュラム・マネジメントの手引き」のプロットの概要は、以下のとおりである。

序論 棚倉町のキャリア教育のこれまでとこれから～カリキュラム・マネジメントの側面から

日常の教育活動における質の向上を目指して

○ QUテスト、キャリア教育意識調査など各種調査結果を一覧できる個人シートの活用

○ 資質・能力の具体化と児童への意識化、保護者や地域との共有化

○ マネジメントサイクルの柔軟な設定

<p>a 学校の教育目標の設定及び実現に向けた研究 教育目標の具現化において、四半期単位の評価サイクルと学校運営協議会との連動による評価・改善、キャリアパスポートと個人シートの連動による資質・能力「聞く力」の育成などを通して、教育目標達成のためのカリキュラム・マネジメントの在り方を明らかにする。</p> <p>b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究 少子化による課題を克服するためにICTを最大限に利用し、育てたい資質・能力と情報活用能力とを関連付け育成し、ICTや地域の人的、物的資源の活用による「個別最適化」と「協働的な学び」の両立などを目指すカリキュラム・マネジメントの在り方を解明する。</p> <p>c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究 「ほめポイントによる資質・能力育成のための見える化、共有化、意識化、強化」を推進し、保護者や地域との共有・協働の推進、四半期ごとの評価・改善、「キャリアパスポート」の活用による「つなぐ」「つなげる」工夫などにおいて、キャリアカウンセリングを通して意図的・計画的・系統的に対話的な関わりをもちながら、なりたい自分になるために学び続ける資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>結論 これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントとは 資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの在り方は、児童に育てたい資質・能力を教師が適切に設定して、「ほめポイント」として焦点化・具体化して児童に意識させ、評価サイクルを適切に設定し、強化等横断的に指導し、その成果を児童の具体的な学びの姿で、教師間、児童、保護者、地域と共有する教育課程を編成・実施・評価・改善すればよい。</p>
---

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度第1回町校園長会議（組織編成、研究計画確認、情報交換）</li> <li>・実践校の取組（各校の研究計画による。以下継続）</li> <li>・第2回町校園長会議（実践上の成果と課題について情報交換）</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回町校園長会議（情報交換）</li> <li>・令和4年度「これからの時代に求められる資質・能力をはぐくむためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」連絡協議会</li> <li>・令和4年度 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 （前年度第4四半期から令和4年度第1四半期の取組経過と今年度の研究内容等の確認）</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回キャリア教育意識調査実施</li> <li>・第4回町校園長会議（第1四半期実践の情報交換）</li> <li>・第1回QUテスト実施</li> <li>・令和4年度 カリキュラム・マネジメント支援訪問 （吉富芳正教授による棚倉町立高野小学校訪問指導）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 カリキュラム・マネジメント支援訪問 （赤沢早人教授による棚倉町立社川小学校オンライン指導）</li> <li>・第5回町校園長会議（第1四半期の反省と評価・改善）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚倉町キャリア教育シンポジウム</li> </ul>

	<p>(町全教職員が一堂に会し、各校の実践発表や講演を聴く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回町校園長会議(情報交換)</li> <li>・小学生職業体験学習(チャレキッズ)開催</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度「これからの時代に求められる資質・能力をはぐくむためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」における実地調査 (村川雅弘教授、吉富芳正教授、後藤麻穂教育課程企画室審議・調整係員の訪問)</li> <li>・令和4年度 第2回カリキュラム・マネジメント検討会議(令和4年度第2四半期の経過報告)</li> <li>・第7回町校園長会議(情報交換)</li> <li>・中学生職場体験学習開催</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回町校園長会議(情報交換)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回町校園長会(情報交換)</li> <li>・実践校において教育課程編成(以下3月まで継続)</li> <li>・第2回キャリア教育意識調査実施 (前年度と第1回及び第2回の結果を比較し成果を検証)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校研究公開</li> <li>・第2回QUテスト実施 (前年度と第1回及び第2回の結果を比較し成果を検証)</li> <li>・学校評価</li> <li>・令和4年度 第3回カリキュラム・マネジメント検討会議(令和4年度第3四半期の経過報告)</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回町校園長会(情報交換)</li> <li>・学力調査(CRT実施、前年度との結果を比較し、成果検証)</li> <li>・学校評価をもとに2年間の実践成果を検証</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回町校園長会(情報交換)</li> <li>・町教頭会(第2年次の実践発表) (実践成果を各校教頭が発表する)</li> <li>・令和4年度 第4回カリキュラム・マネジメント検討会議(令和4年度第4四半期の経過報告と2年間の実践のまとめ)</li> <li>・2年間の実践のまとめ</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回町校園長会(情報交換)</li> <li>・第2年次研究報告書(カリキュラム・マネジメントの手引き)提出</li> </ul>

## 2. 調査研究の内容 (別葉による)

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果 ●：課題)

- 育てたい資質・能力は、校種をつなぐという観点から実態をもとに教師が設定して子どもに意識させることで育むことができるということが確認できた。
- 育てたい資質・能力は、「ほめポイント」の形で具体化・重点化して、強化等横断的に指導することで育むことができることが確認できた。
- 「ほめポイント」をもとに、教師は子どもと対話的・肯定的に関わり、子どもの自己肯定感や有用感を高めることができることが確認できた。
- 授業のめあてから志まで、「振り返り」「見通し」を大切に、「自己マネジメント力」を育成することができることを確認できた。
- 資質・能力の評価サイクルは柔軟に設定し、「子どもの学びの姿」で指導に生かすことで、資質・能力を育成できることが確認できた。
- 「子どもの学びの姿」を子ども、教師、保護者、地域と共有するよう発信することが有効であることが確認できた。
- 意識調査や学力調査等の結果をつながりの中（個人シート）で活用し、個に応じた指導で学力向上を目指すことができた。
- 「子どもの学びの姿」をあらゆる機会（面談、通知表、指導要録等）に活用し共有化して、教育目標の達成を目指すことができた。
- さらに、教師が対話的な関わりを持ち相互作用の中でキャリアを創り上げていくことが効果的にできるカリキュラム・マネジメントの在り方を追求する。
- 小学校の段階では、共有した子どもの姿から、児童の思いや願いを生かして教育課程を編成・実施・評価・改善する。
- 幼稚園で培った資質・能力を小学校で伸ばすことができ、小学校で培った資質・能力を中学校で伸ばすことができるような幼・小・中連携したカリキュラム・マネジメントの在り方を追求する。

### 4. 参考資料

#### 【必須】

- ①実践地域の取組の概要が分かるもの
  - ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料
- ※ 2年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり、カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

#### 【任意】

- ・各種アンケート結果
- ・その他 参考となる資料